

# 国語科より

## 【受験生 国語（受験国語基礎）】

### 1. ご用意いただくものと配付するもの

#### ① 予め用意して **Gnoble** の授業に持参すべきもの

□辞書（電子辞書やスマートフォンのアプリ・サイトでも可）

解説の補助として国語辞典・古語辞典などを参照できると便利です。古文・漢文の授業では日常的に使用している古文単語帳や漢文の教材などがあれば、持参しましょう。

また、G1タームで配布する「古文漢文必携テキスト」はG2ターム以降も必ず持参してください。

#### ② 授業内では使用しないけれども、ご用意いただきたいもの

□古文・漢文の基礎レベルの読解問題集（G2ターム以降）

授業内では、難しめの問題、解くのに工夫が必要な問題を中心に扱います。それを復習することはもちろんですが、日常的な学習に使用するため、易しめの読解問題集も用意し、演習経験を積みましょう（具体的な教材名等は授業内外で担当よりお伝えします）。

□「赤本」「青本」などの過去問演習用教材

ご自分の志望校でどのような問題が出題されるかを予めある程度知っておくと到達目標の目安がつかます。閲覧用ですので、実際に購入するのはGターム終了後で結構です。

#### ③ **Gnoble** の授業内で配付されるもの

□古文漢文必携テキスト：G1-1で配布します。G4タームまで常に使用します。

□古文漢文演習テキスト：G1-1で配布します。基礎的な問題から過去問まで取り扱います。

□確認テスト：前回の授業内容の定着を確認するテストです。

□復習プリント：授業内容の定着を図るためのプリントです。

### 2. 授業の進み方と日々の取り組み

#### ① 授業の進み方

基礎から標準、標準から応用とタームが進むごとに内容が深まるように授業が進みます。一度の欠席によって抜けてしまう内容が大きい講座になりますので、なるべく欠席しないようお願いいたします。

G1ターム：古文→用言活用・助詞・助動詞・敬語、基礎的な文章読解演習、古文単語  
漢文→文構造の理解（再読文字）、基礎的な文章読解演習  
現代文→四字熟語他語彙

G2ターム：古文→和歌の修辞法・特殊読み、標準的な文章読解演習、古文単語  
漢文→句形・副詞読み・漢文語彙、標準的な文章読解演習  
現代文→四字熟語他語彙

G3ターム：古文→標準的な文章読解演習、過去問演習、古文単語  
漢文→過去問演習  
現代文→四字熟語他語彙、評論文読解演習

G4ターム：古文→標準的な文章読解演習、過去問演習、古文単語  
漢文→過去問演習  
現代文→四字熟語他語彙、小説読解演習

#### ② 日々の取り組み

## A・授業の予復習

G1.2 タームにおいては、予習は課しません。課された課題と復習を中心に学習してください。それに加えて、「古文の全品詞分解や訳の作成」「漢文の音読や書き下し文の作成」などを行ってもらえればより学力が伸びます。この丁寧な復習に掛けてもらいたい時間は60分から120分です。G3,4タームからは毎授業、事前に解く問題が指定されます(大問1~2題、所要時間30~60分程度)ので、必ず実施した上で授業に臨みましょう。授業後はG1タームからと同じように丁寧な復習を行うことが必要です。

## B・基礎知識の確認

一度履修したことは一度で定着させるよう、復習や見直しを徹底してください。授業から24時間以内に一度復習をし(帰りの電車でテキストを見直す程度でも結構です。5分から10分程度でかまいませんのでザッと見直してください)、加えて翌週の授業までに2~3回同じようにザッと見直しをしてください。机に座って丁寧に復習する時間も必要ですが、反復の見直しも大切です。

## C・過去問演習

大学・学部ごとに出题形式・傾向の大きく異なる国語では、過去問での演習が重要です(残念ながら、予想問題集は出題を十分に模しているとは評し難く、過去問そのものでの練習を推奨します)。受験国語基礎は夏休みから過去問演習に当たれるように学力を伸ばす講座ですので、G

ターム中は過去問の演習をお勧めはしません。夏期講習以降、それぞれの学習状況に合わせ、各講座の担当が開始時期や頻度などを指示します。東大・難関国語では、メール・FAX等も活用した添削制度を運用しています。

(参考)

東大国語で春期講習に配付した学習アドバイス資料

それぞれの時期に何をすべきか、授業内でクラス全体にお示しします。一方で、個別の事情もあるかと思しますので、遠慮なく担当にお声がけください。

### 東大国語 1年間の過ごし方

#### 基本の心構え

- ・受験で大きく差がつくのは英数理社。勉強バランスに注意せよ。
- ・通常授業の受講(全受講、ターム選択受講、受講せず)は戦略的に。
- ・「授業でやること」と「自分で勉強すること」の役割分担を意識する
- ・模試受験も問題集も過去問演習も、量より理解度・定着度が重要。復習せよ。

時期	東大国語	個人の国語の勉強・取り組み	模試
春休み	春期講習 (現古漢総合)	古文漢文の基礎(単語・文法)完成	
3/31 ・4/1	入室テスト (古文漢文の基礎)	<p>漢文知識がほしい人は今のうちに!</p> <p>◆負担感の少ない学習法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「古文漢文の基礎」の復習 → 学校の国語復習・国語の漢文の句形・語法の本をコピーして覚える</li> <li>・新・漢文の基本ノート → 形演習用(日本社)</li> <li>・トレーニングノート → 基本漢文句法 受験研究社</li> <li>・「クイズ」収録の白痴国語漢文(学)</li> <li>◆負担感の入室テスト前には要チェック! 良い 辞書がやはり活用せよ</li> <li>・漢文やマのヤマ → 明証漢文、漢文必携、よく学校で読まれる漢文の基本書</li> </ul>	<p>学校・塾で受験する問題を事前に、夏休みに確認し、自分で確認し、以下学習中に購入するものも、塾生を参考に、ペースメーカーとして勉強することをお勧め。</p>
4月 GW	G1 現代文	古文・漢文の問題演習(易しめで良い)	5/5全統マーク模試
5月	G2 古文	問題集の例書店で自分で選ぼう、夏休みの終わりにまでに古漢1~2冊進めたい。学校が演習形式であれば、それをしっかり予習・復習するのも良い!	5/12全統記述模試
6月	G3 現代文	マーク式基礎問題集 漢文 河合塾(センターよりやや難)	<p>(国語学習がまだ仕上がっていない限りは)</p> <p>わざわざ遠征全国模試(ハイレベル)・河合フライトステージなどを受ける必要はない</p>
7月	G4 漢文	古文上達 受験漢 国語と漢語の今 トレニングノート 古文 受験研究社 長外塾古文単語 2巻 現・旧・新・漢文を同時に身につける	7/28全統マーク模試
8月	夏期講習 (現古漢総合)	①苦手分野の克服 ②Gタームの復習 ③東大模試の復習 ④過去問1年分	<p>(1学期の総決算、仙台も併修時期にあり)</p> <p>8/3・4河合東大オープン</p> <p>8/10・11 駿台東大実戦</p> <p>(できるだけ両方受ける)</p> <p>8/25全統記述模試</p> <p>(夏休みの総決算、理社の基礎完成チェック)</p>
9月	E1 現代文	(余力があれば)過去問演習	10/13全統記述模試
10月	E2 古文	※2011年~12年の問題を中心に、大問単体で演習する(1年分まとめてもよいが、試験時間が足りなくなる教材ではないので、問題集がわりに1題1題演習する形で構わない)	<p>(志望校を選べれば、志望校決定の最終材料)</p> <p>11/2・3 河合東大オープン</p> <p>11/9・10 駿台東大実戦</p> <p>(はじめて練習する生徒は練習・E3マークを併修)</p>
11月	E3 現代文	※現役志向の強い生徒は、私大過去問も問題集的に使用するがよい。	11/24全統センタープレ
12月	E4 漢文	※2014~19年の問題はセンター試験後実施用にとっておく。不足する場合は、予備校の東大模試問題集を使用する。	
12月中下旬 ・1月上旬	冬期講習 (現古漢総合)	※他教科や東大国語授業の予復習が優先。	
1月中旬		国語に関しては、この時期はとにかくセンター演習!	
1月下旬	直前講習	※ここで過去問を80分1セットでやるために解かずに取っておく! ※学校で解いている場合『センター試験実戦問題バックV』(駿台)などを学校経由で購入できるなら買しましょう。市販問題集だけでは演習教材が足りなくなる可能性があります	
		センター試験→出願校確定	
		併願私大過去問演習、東大過去問演習、過去の教材復習	
		※2014~2019年の過去問をやる範囲で実施する一添削制度あり	
		※後期国公立大を併願する場合も、対策は前期試験終了後からOK	